

最終公開審査対象応募案件改善アドバイス

2018年4月24日
COG2017 審査委員会

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、(1) アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、(2) COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリリースの範囲で検討してみること、(3) アイデアの実現フェーズに移行するには(1)の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

琵琶湖の水草有効利用の社会的仕組みを市民の力でつくりあげる。

(応募チーム：水宝山 (水草は宝の山))

(特徴)

1994年夏の大洪水以降、琵琶湖南部で大量発生する「水草」は地元への迷惑問題と生態系への影響などの「環境問題」を生んでいて、この対策にまずは地元の地域住民の力で関係機関の協力を得ながら対応しようというところに特徴がある。

水宝山プロジェクトのねらい

真野浜周辺で、住民と企業や団体、各界の専門家をつなぐ仕組みを構築
水草の収集から堆肥としての再利用までの**資源循環システムを実証実験**

迷惑問題や環境問題につながる**水草**を
宝の山にかえる取り組み

真野浜周辺の住民

水宝山プロジェクト

各界の専門家

企業や団体

公団管理員、観光船運行事業者、琵琶湖レジャー事業者、生花店オーナー、大学の研究者、漁師、自治体職員、システムエンジニアなど多彩



第1フェーズ	小さな循環 (真野浜)
第2フェーズ	大きな循環 (南湖)
第3フェーズ	他地域へ横展開 (琵琶湖全体)

(アドバイス)

(1) 実行計画に沿った着実な実施

今回の応募にあたって作成された計画では三段階分けをしてありますが、まずは第一フェーズの「迷惑問題」の「湖岸に漂着した水草の資源循環（小さな循環）に着実に取り組んで実績を積み重ねて欲しいと思います。その際に真野浜に隣接する三つの自治連合会との連携が重要ですが、COG の精神を活かして、水草問題に自分ごととして取り組んでいただける方々の掘り起こしも有益で、この方々と自治連合会とのポジティブなつながりで進んでいくことを期待いたします。

（２）専門家集団との連携とファンディング問題

実際に水草の資源循環が回っていくのかの実証実験も組み込まれていて、ある程度資金的基礎の必要なことから、多くの賛同者から広く資金を集めてその成果を還元していくクラウドファンディングが有効に活用できるような魅力的な方策も視野に入れて組み込まれていくと有意義かと思われます。

（３）県との連携と琵琶湖全体への拡大

琵琶湖の水草処理は環境対策をつかさどる滋賀県の事業でもあるため、県との連携が不可欠となってきます。住民発のアイデアである強みを生かして、住民から見た跡切れのない施策の連携もあり方としても注目していきたいところです。そうして、さらにはこの活動が琵琶湖全体に広がって SDGs の一つのモデル例となっていくことを期待いたします。